



True Global Links



ニッスイグループ 中期経営計画

説明会

2012年 4月 5日

証券コード: 1332

お問合せ先:

総務広報部 03-3244-4371

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

日本水産株式会社

- 新TGL計画の総括
- 環境変化予測
- 新中期経営計画について
 - 次の100年に繋げるために
 - 経営の基本方針
 - 基本的な考え方
 - 5つの基本戦略(事業としての考え方)
 - 3つのお役立ち(社会へ、お客様へ)
 - 新中期経営計画のタイトル
 - 主要戦略
 - 目標とする姿

1. 新TGL計画(2006年度～2011年度)の総括

【3つの基本戦略】

1. 基幹事業の収益力向上
2. 事業高度化⇒収益力革新
(養殖、機能性素材)
3. 第3の生産手段の開発
(バイオ生産)

【3つの手段】

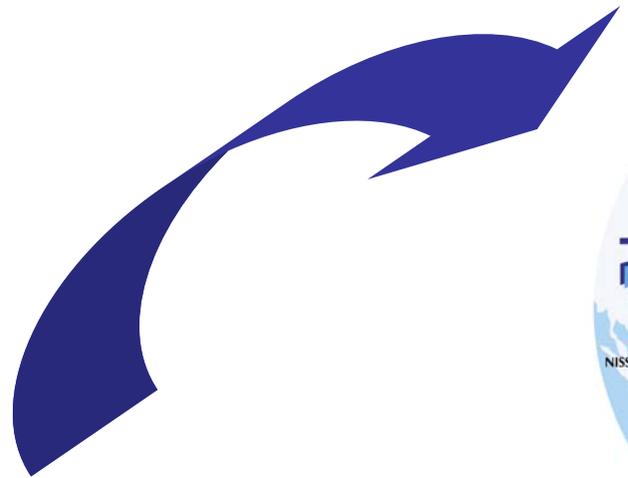
1. メーカー機能に集中
2. グローバルな販売拡大
3. 計画のコミットと履行



2つのTGLの達成

True Global Links
True Global Leader

1. 新TGL計画の総括 仕掛けたこと・・・Global Links の強化



2006年4月時点
True Global Links



True Global Links



NISSUI
2012年4月現在

1. 新TGL計画の総括

仕掛けたこと・・・Global Linksの強化

2012年4月5日現在の主な会社



戦略ゾーンでのリンクス機能を強化してきた

連結会社 +5社 計67社

持分法適用会社 +5社 計40社

計 107社

※新たにGLに加わった会社は39社

※統合やGLから外れるなど減少した会社は29社(連結+持分)

※連結会社と持分法適用会社の間で異動のあった会社は10社

新たにGLに加わった主な会社

統合や資本関係を変えた主な会社

新TGL計画で定めた戦略ゾーン

黒字: 連結会社、青字: 持分法適用会社

	資源アクセス		加工	商事/卸	物流	医薬/ファイン	その他
	漁業	養殖	水産・食品				
日本			日水個別 水産 日水個別 食品			日水個別 ファイン	
	共和水産	黒瀬水産 中谷水産 金子産業	日本クッカーリー モガミフーズ 日豊食品 デルマール 博多まるきた水産 ハチカン クニヒロ 金子食品 十味惣 笹谷商店 東京キタイチ	横浜通商 山津水産 大分中央水産 大水 ホウスイ 水産流通 クラハン 広島水産 丸魚水産 ケイ低温フーズ	日水物流 キャリーネット 北海道日水 キャリーシステム 東京水産運輸 ヒノマル日水	日水製薬 北海道ファインケミカル	日本海洋事業 ニッスイマリン工業 ニッスイ・エンジニアリング 長崎造船 ニッスイ・フード・システム
北米	UniSea Bering Sea Partners Glacier Fish Company		Gorton's King & Prince	F.W.Bryce			
南米	PESPASA PESANTAR DOSA (EMDEPES/FRIOSUR)	Salmenes Antartica Netuno International	Netuno International	Netuno International Nordsee			
欧州			Cite Marine LEUCHTTURM	Nordic Seafood Europacifico			
アジア オセアニア	Sealord	Nissui Indonesia Sealord	NIGICO Nissui Thailand Thai Delmar 山東山孚日水 大明食品	Nissui(S'pore)		TN Fine Chemicals	

1. 新TGL計画の総括

期間中に起きたこと



【水産業界】

- ✓ サステナビリティに向けた取組みの重要性が高まる
例) 漁業・・・TACの設定と、それを遵守した操業の重要性
養殖・・・環境と生物多様性への配慮の重要性
- ✓ 世界同時不況をきっかけに、欧州を中心とした購買力の減退
- ✓ チリでの地震、寄生虫、魚病などの発生が、鮭鱒養殖業界に大きな打撃

円高
エネルギー価格高騰
欧州危機

【食品業界】

- ✓ (日本)食の安全性への関心が高まる
ポジティブリスト制導入、度重なる業界不祥事
- ✓ (日本)すりみ価格をはじめとした原材料価格の高騰
- ✓ (北米)景気低迷、原油価格高騰などによる外食産業の不振

直近の出来事

東日本大震災(三陸の漁業・養殖・加工機能に大打撃、放射能問題、電力問題)
⇒消費の構造変化、産業界への影響

1. 新TGL計画の総括

できたこと、できなかったこと



【できたこと、進んでいること】

- ✓ 漁業・・・北米会社の再編
- ✓ 養殖・・・Salmones Antartica(環境変化への対応)
黒瀬水産(R&D、営業との協働の進化、中谷水産(共和水産との協働)
- ✓ 加工・・・Cite Marine(欧州加工拠点)、デルマール(インテグレート機能強化、技術の取得)
国内工場(品質管理、拠点整備)
- ✓ 商事・・・Nordic Seafood(欧州販売拡大)

【改善しつつあること】

- ✓ 加工・・・ハチカン
- ✓ ファイン・・・鹿島工場、
アラキドン酸(バイオ)生産が可能となる

【まだ改善が必要なこと】

- ✓ 加工・・・SANNIS、King & Prince

【断念したこと】

- ✓ 養殖・・・うなぎ養殖
- ✓ 震災・・・女川工場、女川油飼工場、ハチカン久慈工場

【断念すること】

- ✓ 漁業・・・PESPASA, PESANTAR
- ✓ 養殖・・・ニッスイインドネシア、

全体として

方向性◎:

- ✓ 資源アクセスの強化への手を打った
- ✓ メーカー機能の強化への手を打った
- ✓ 第3の成長への手を打った

- ✓ ニッスイ個別の利益が不足
- ✓ 大型投資に対するリターンが不足

1. 新TGL計画の総括

事業別／エリア別 売上高(2010年度と2005年度の比較)



<事業別>	水産事業	食品事業	ファイン事業	物流事業	その他事業	連結計
2010年度	1,885	2,543	252	117	143	4,942
2005年度	2,229	2,701	230	123	111	5,396
増減	▲ 343	▲ 157	21	▲ 6	32	▲ 453

<エリア別>	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	連結計
2010年度	3,963	554	104	69	250	4,942
2005年度	4,631	637	44	43	39	5,396
増減	▲ 668	▲ 82	60	25	210	▲ 453

Global Linksの再編

新たに連結に加わった会社

資源アクセスの強化
メーカー機能の強化
海外販売機能の強化

売上高の増減

696億円

連結から外れた会社

国内の商事会社
の再編ほか

1,261億円

売上高の増減

個別食品

280億円

個別ファイン

34億円

個別水産

横ばい

新TGL目標
6,000億円

※連結調整を省略して記載しております 8

1. 新TGL計画の総括

事業別／エリア別 営業利益(2010年度と2005年度の比較)



<事業別>	水産事業	食品事業	ファイン事業	物流事業	その他事業	連結計
2010年度	1	42	52	15	3	80
2005年度	41	10	61	19	1	111
増減	▲ 39	31	▲ 8	▲ 4	1	▲ 30

<エリア別>	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	連結計
2010年度	99	0	17	▲ 7	6	80
2005年度	86	36	17	▲ 5	0	111
増減	13	▲ 36	▲ 0	▲ 2	5	▲ 30

北米事業

営業利益の増減

↑
新TGL計画目標
300億円

UniSea

25億円

11年度は05年度に比べ、回復予想

K&P

(05年はFK含む)

2億円

ニッスイグループ 中期経営計画



2. 環境変化予測

- 世界人口の増加; アジアを中心に
- 新興国の成長; 高い経済成長と物価・賃金の上昇
- 先進国の変化
 - ✓ 少子高齢化と医療費負担増
 - ⇒ 水産物や健康関連商品の需要拡大
- 漁獲量の頭打ちと高まる養殖ビジネスへの期待
- 資源価格の高止まり

<日本特有の変化>

- 高齢者(アクティブシニア層)の増加
- 家族人数の減少
- 食料支出、食事作りの変化
 - ✓ 生鮮品の減少と調理食品の増加
 - ✓ 買物時間の短縮 など

企業としての社会的責任の重要性
 社会とのかかわり方の変化、環境への関心、
 社会とのかかわりの重要性が増す

食糧消費の構造が大きく変わる

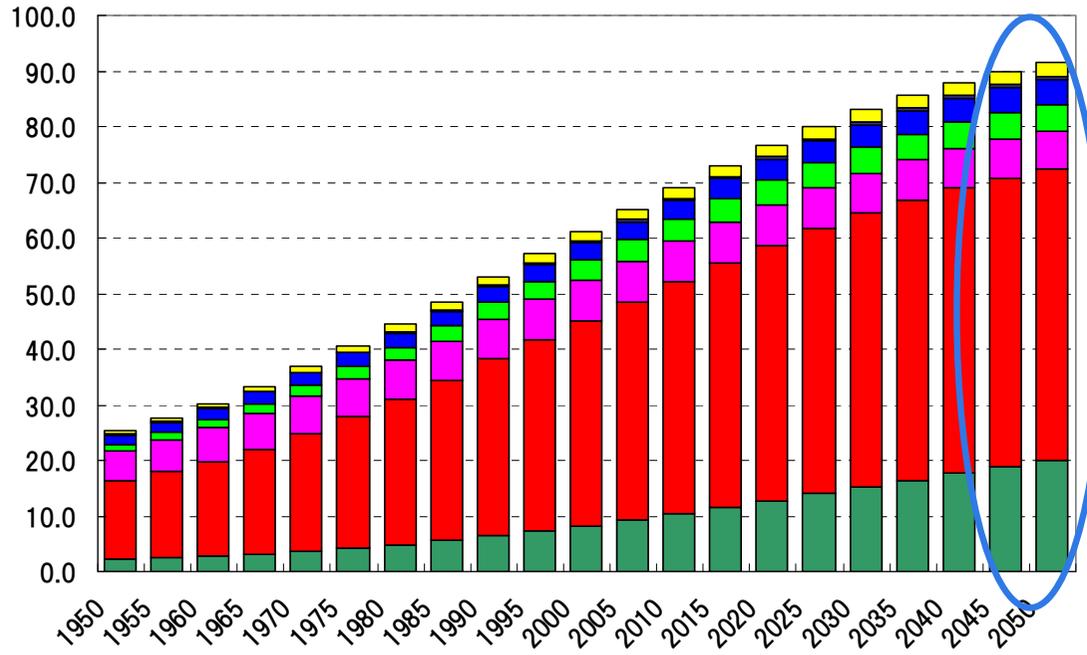
2. 環境変化予測

世界の人口／1人あたりGDP

国連による世界の人口-2050年までの見込み-

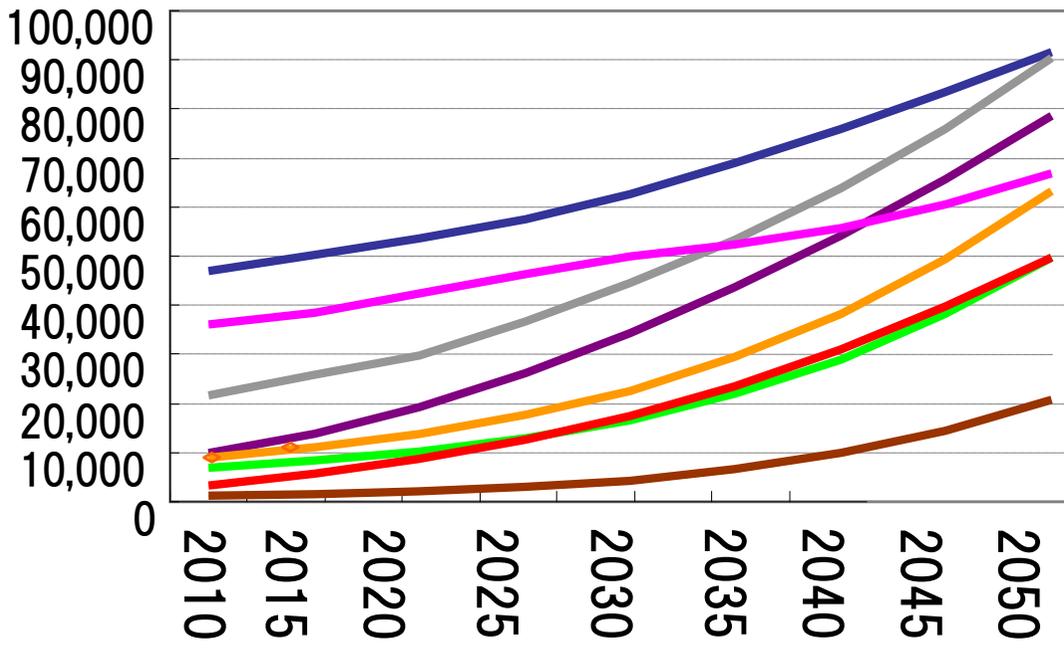
1人あたりのGDP予測

(単位:億人)



- アフリカ
- アジア
- ヨーロッパ
- 南アメリカ
- 北アメリカ
- オセアニア
- 他

(単位:ドル)



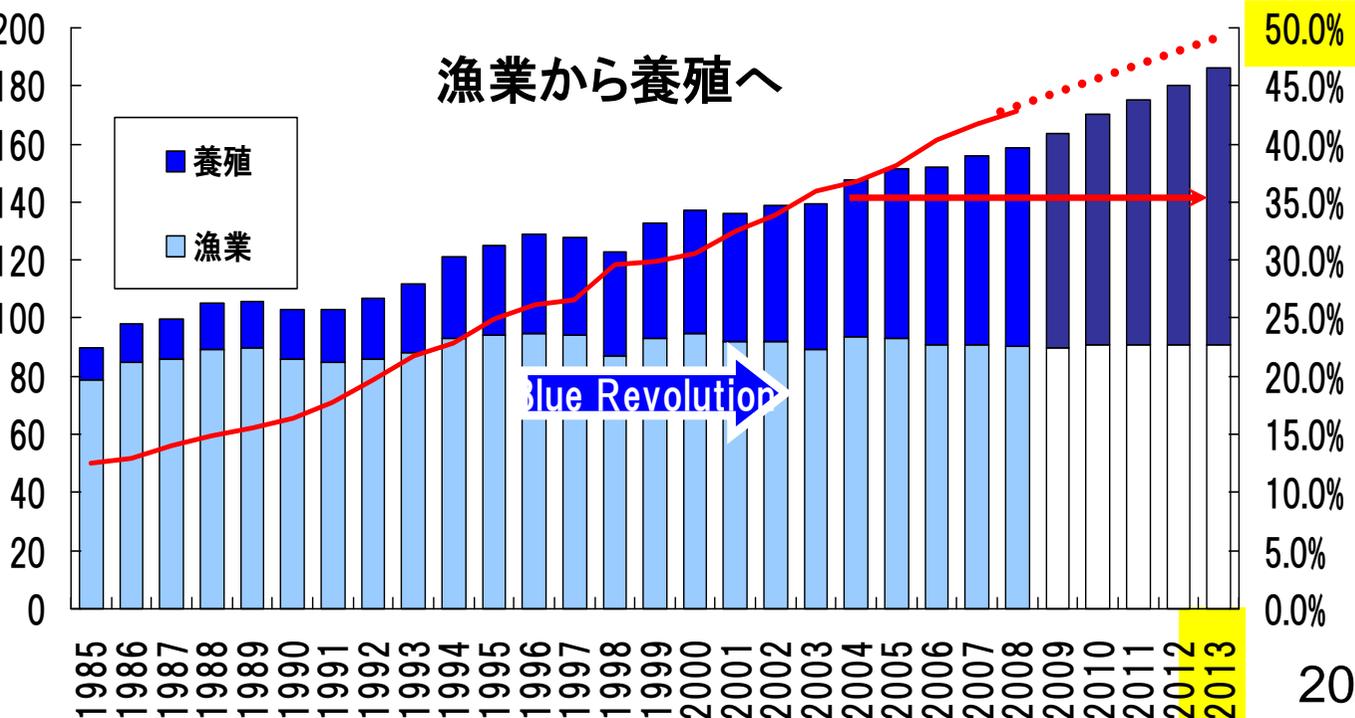
- アメリカ
- 韓国
- 日本
- ロシア
- メキシコ
- ブラジル
- 中国
- インド

2. 環境変化予測

世界の水産物生産 / 日本の食糧支出の変化

左軸:生産量(100万トン)

右軸:養殖業が占める割合(%)

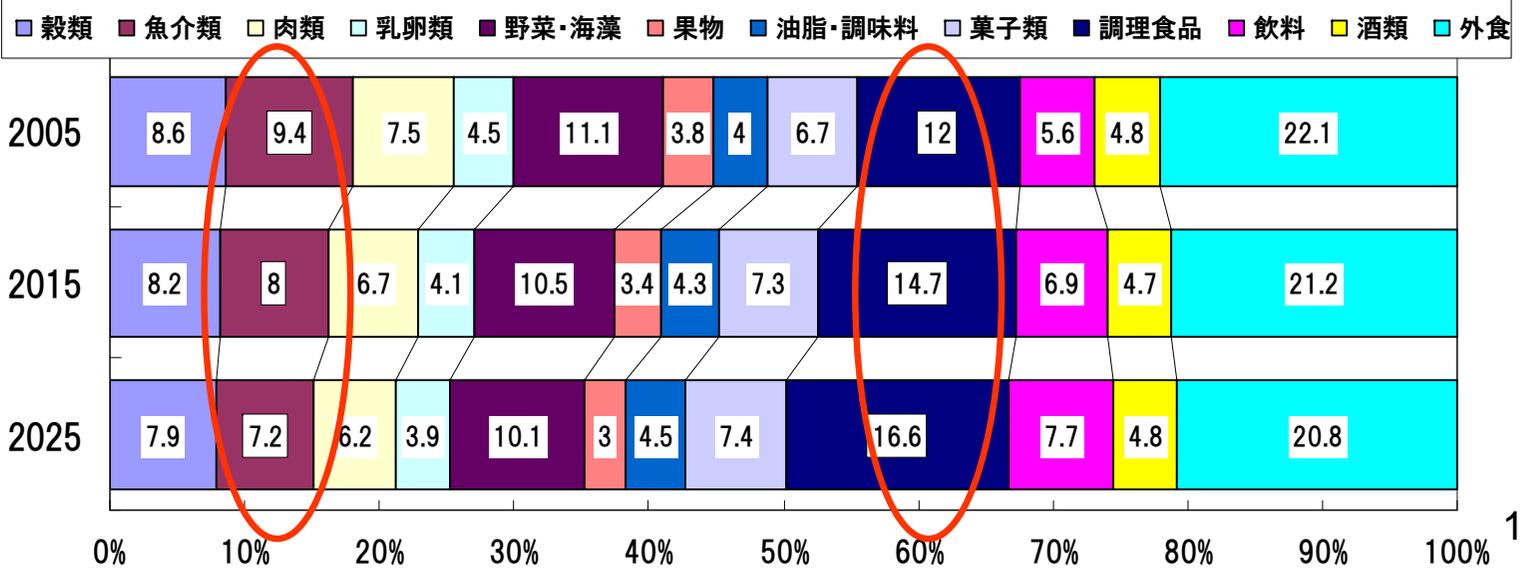


Source: FISHSTAT (2010年以降は予測値)

2013年には漁業:養殖=50:50の比率になる予測。

2025年の日本の食料支出額の試算

食料支出の合計額 1.9%減
 生鮮品の支出割合が減少
 ↓
 調理食品の支出割合が増加



Source: 農林水産省

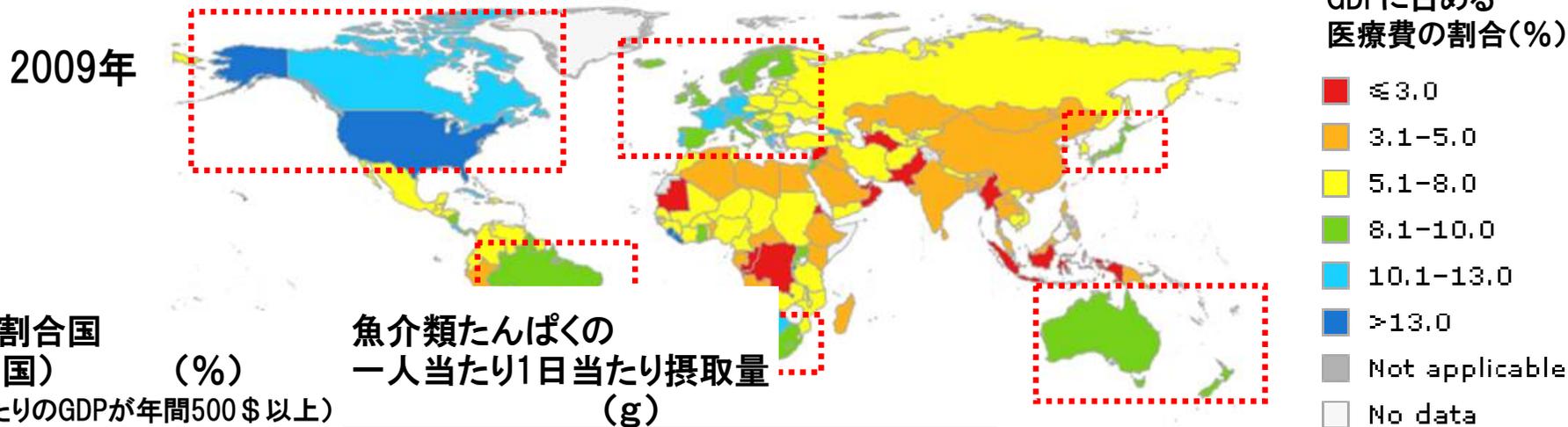
2. 環境変化予測

先進国における医療費の増加



GDPに占める医療費の割合

WHOの調査によると1999年から2009年の10年間、調査国190カ国中138カ国でGDPに占める医療費の割合が増えている



GDPに占める医療費の割合国 (10%以上の上位10カ国) (%)
(人口500万人以上、一人当たりのGDPが年間500\$以上)

	1999年	2009年	増加
アメリカ	13.4	16.2	2.8
ベルギー	8.9	11.8	2.9
フランス	10.1	11.7	1.6
ドイツ	10.3	11.4	1.1
キューバ	6.6	11.3	4.7
デンマーク	8.5	11.2	2.7
オーストリア	10.1	11.1	1.0
ポルトガル	8.0	11.0	3.0
カナダ	8.9	10.9	2.0
オランダ	8.1	10.8	2.7
日本	7.5	8.3	0.8

魚介類たんぱくの一人当たり1日当たり摂取量 (g)

1997年	2007年	増加	Fish/Animal Proteins(2007)
4.7	5.6	0.9	7.6%
NA	6.4	-	10.8%
7.8	8.9	1.1	12.2%
4.6	4.6	0.0	7.6%
2.9	2.4	▲ 0.5	10.1%
7.5	7.8	0.3	10.9%
2.9	4.2	1.3	6.6%
14.5	16.4	1.9	23.0%
6.0	6.0	0.0	10.2%
4.6	6.9	2.3	10.1%
23.7	20.7	▲ 3.0	39.9%

特に先進国の医療費の増加は国家財政の大きな負担となっている

Source: WHO Total expenditure on health as a percentage of gross domestic product

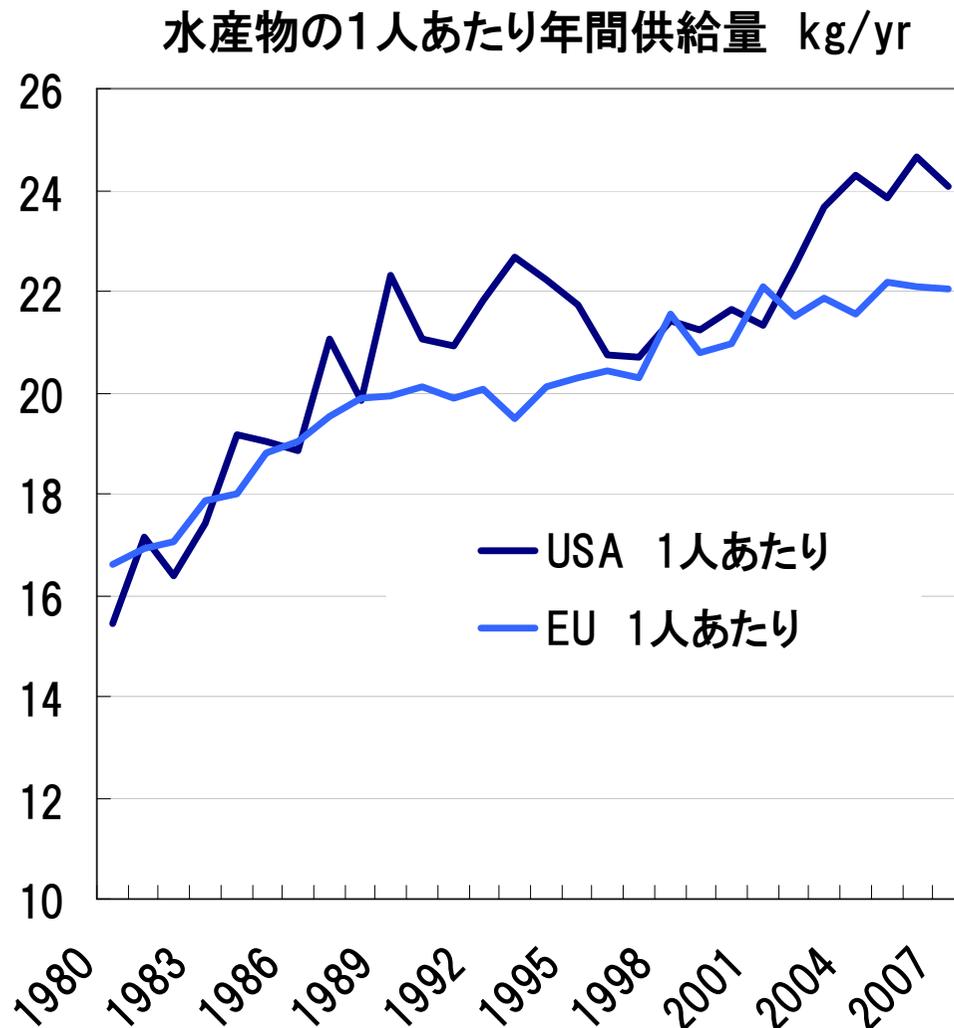
Source: FAO FISH AND FISHERY PRODUCTS WORLD APPARENT CONSUMPTION STATISTICS BASED ON FOOD BALANCE SHEETS

2. 環境変化予測

先進国政府機関の魚食の推奨



欧米では政府機関などが1週間に2回シーフードを食べることを推奨。



Scientific Advisory Committee on Nutrition(SACN)の
キャンペーンロゴ, イギリス

仕掛けたものを 成果に結びつける

グループの機能・強みを引き出す
経営資源の集中点を明確にする
損益分岐点を下げる

一貫事業を核に その周辺の扱いの 「量」「幅」を増やす

「漁業」「養殖」プラス「買い付け」

ステークホルダーの皆様に
共感いただける会社になる

ニッスイグループの イメージを向上させる

地球から、海から、おいしさと楽しさ、
健康と美をお届けするメーカー

財務体質を改善する

損益分岐点を引下げる
B/Sを筋肉質にする
適切なリターンの確保

4. 次の100年に繋げるために(計画の中心に据える考え方)

次の100年につなげるために

“今こそニッスイの原点に帰ろう”

使命感

グローバル

イノベーション

お客様を
大切にする

現場主義

ニッスイの**原点**を構成する**5つの要素(遺伝子)**

お魚の価値をお客様の喜びに直結させる
変化に対応し、お客様にお役立ちできる機能を磨き続ける

＜ニッスイの持つ機能＞

- ✓ 資源アクセス力
- ✓ R&D
- ✓ GLOBALな展開力
- ✓ コスト競争力
- ✓ 効率的なサプライチェーン
- ✓ 販売力

すべての機能を結集

＜お客様の喜び＞

- ✓ 生活シーンの提案
- ✓ おいしさ・健康と美・利便性
- ✓ サステナビリティ
- ✓ 社会との共生

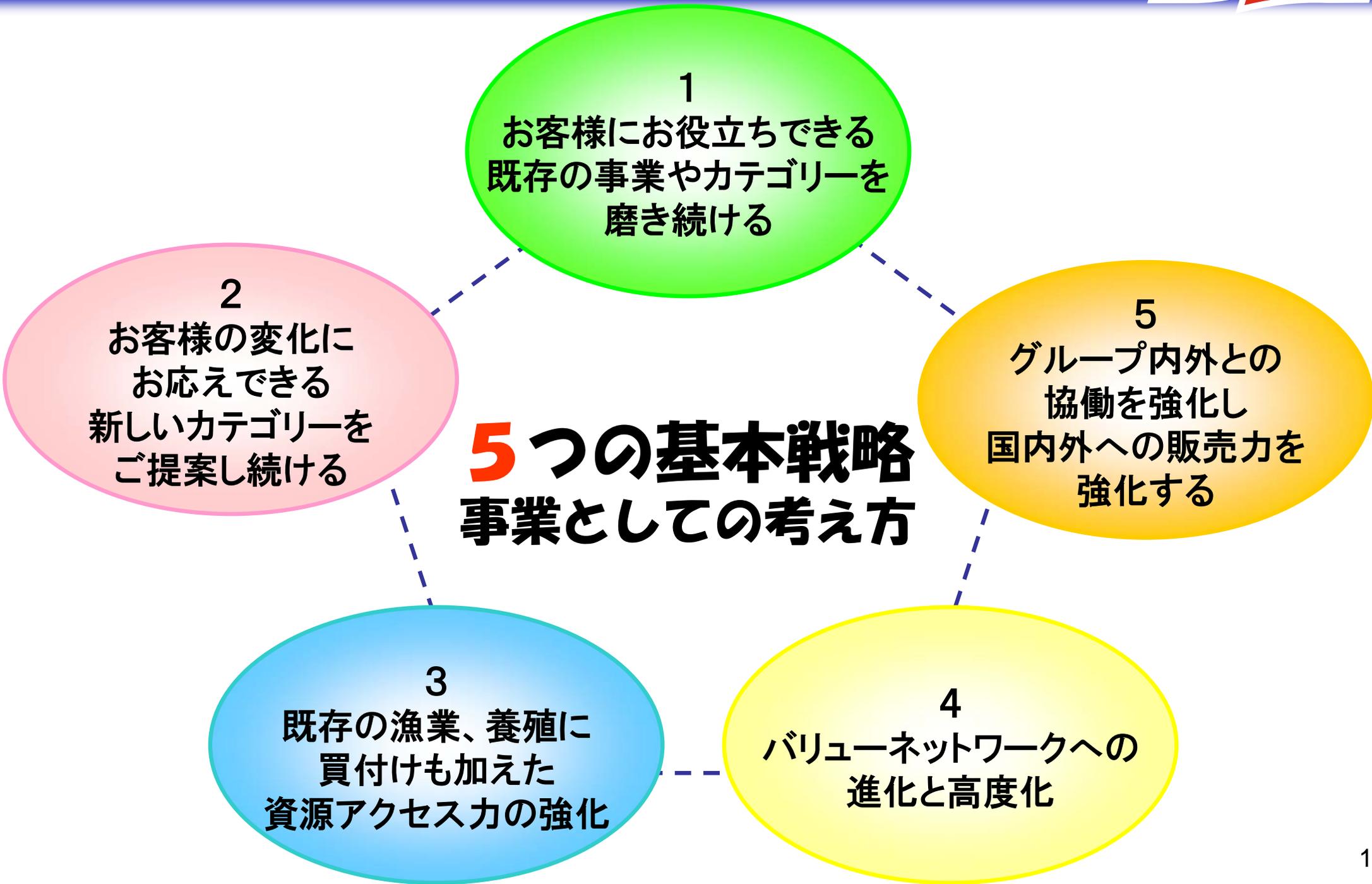
「私たちは、**水産資源の持続的利用と地球環境の保全に配慮し、水産物をはじめとした資源から、多様な価値を創造し続け、世界の人々のいきいきとした生活と希望ある未来に貢献します。**」

- ①水産物をはじめとした資源からグローバルバリューネットワークを構築する
- ②研究開発とマーケティングを重視し、生活者視点に立った価値と機能の創造を目指す
- ③起業家の志を持って、様々なイノベーションに取り組む
- ④地球や海の資源を持続的に有効活用し、環境を大切にする
- ⑤企業としても個人としても折り目正しい行動をする

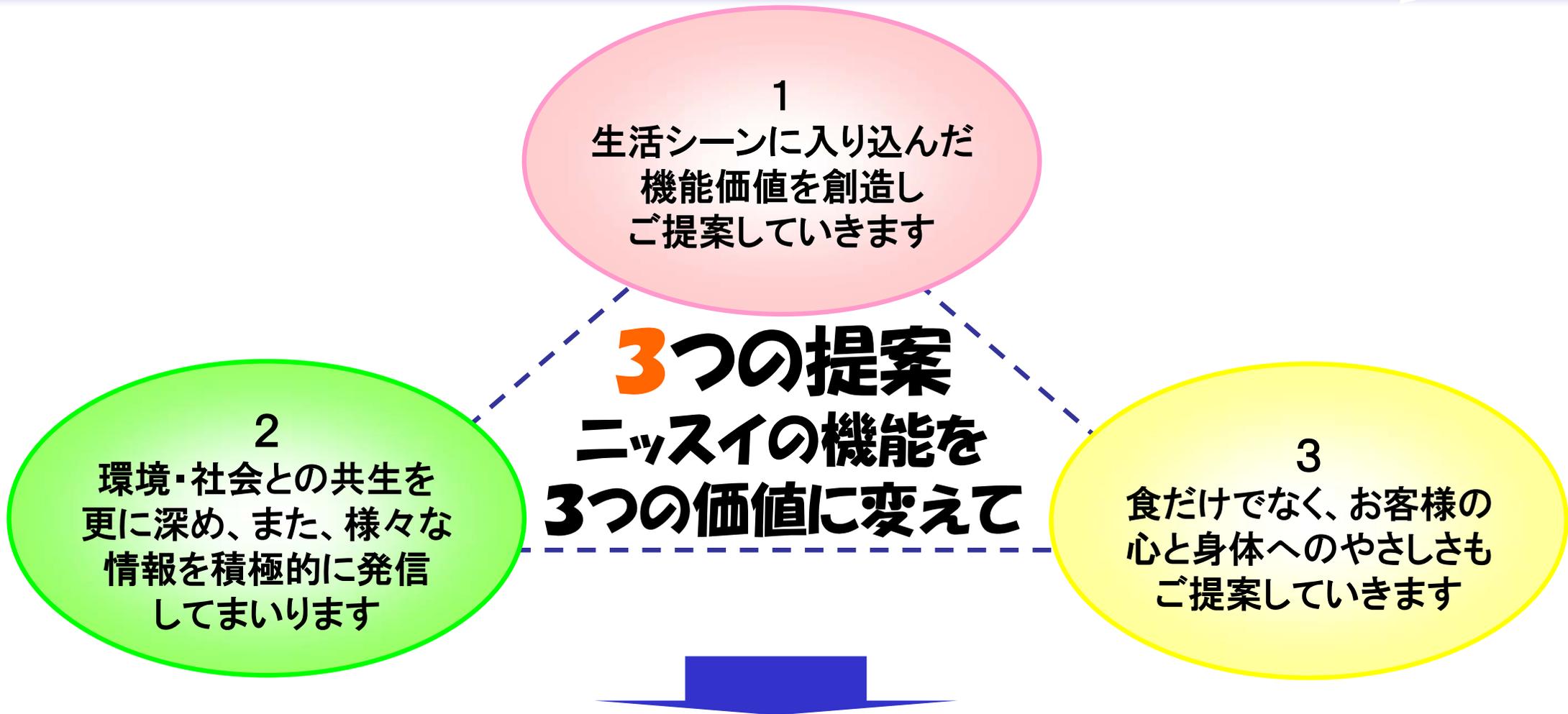
“サステナビリティへの配慮”

お魚を通じて
“未来＝人々の健康と美へ貢献する”

“食から生活、そして人の心へ”



7. 3つのお役立ち(社会へ、お客様へ)



“ニッスイグループのあるべき姿”
地球から、海から、おいしさと楽しさ、
健康と美をお届けするメーカー

健康配慮
サステナビリティ
おいしさと機能
コミュニケーション
ユニバーサル

にまじめな会社
(共感・感動)

と感じてもらえるよう活動していきます

中期経営計画2014(MVIP)

2... 損益分岐点を下げ、営業利益率を**2ポイント**改善する

0... **ゼロ・原点**に帰る

1... それぞれの業務領域で**No. 1**になる

4... 新中期経営計画作成上のおさえるべき**4つのポイント**を意識する

Make **V**alue through **I**nnovative **P**lan

...私たちはイノベーションを通じて価値を作り出します

MVP + MIP

Most **V**aluable **I**mpressive **P**layer

...一人ひとりが社会や会社にとって、価値ある存在、共感を持たれる存在でありたい

本中計は“ベーシックな要素を超越するインキュベーション期間” R&D、マーケティング、生産、調達を更に磨く

ベーシックな要素

- ✓ おいしさ
- ✓ 健康と美
- ✓ 安全安心



新しい価値

- ✓ いきいきとした生活
- ✓ 希望ある未来
に貢献します

<養殖事業(ぶり、まぐろ)>

生餌⇒低魚粉飼料 = 環境配慮
人工種苗 = サステナビリティ

種苗生産

新しい食べ方の提案



低魚粉飼料

<EPA Nアセチルグルコサミン>



<東京 イノベーションセンター>



創業100周年記念事業

サステナビリティに配慮し、資源へのアクセス力を更に磨きながら、グローバル市場を対象とした、お客様起点の市場創造力を持つ水産事業に変革する

＜資源アクセス力を更に磨き込む＞

1. 養殖事業における存在感を極大化
2. グローバル市場を対象としたボリュームゾーン魚種の調達力拡大
3. グローバルリンクスの協働
4. 新たな事業化への布石

＜お客様にお役立ちできる カテゴリーの強化と創造＞

日本のお客様へのお役立ち

キーワード
即食・簡便・健康



＜バリューチェーンの高度化＞

1. 水産業務プロセスの変革による販売力の強化
2. 水産業界を絡めた販売力の強化
3. お客様の変化を捉えたR&D

資源アクセスを更に磨きこむ

< 養殖での存在感を極大化する >

日本

- 鮭鱒養殖...再構築(境港)
- ぶり養殖...先端化(人工種苗、低魚粉飼料)
- まぐろ養殖...高度化(配合飼料の実用開始)
- 水産飼料...原料調達力と販売力強化

チリ

- 鮭鱒養殖...規模・収益性の拡大

新しい取組みとして

- ティラピア、パンガシウス等の取扱拡大に取り組む

< ボリュームゾーン魚種の拡大 >

グローバルでは

- 助宗、鮭鱒、えびのフルポテンシャルを引き出す

日本では

- 独自の加工技術(低塩、漬魚...)を磨き使用する原料魚種を広げることでボリュームゾーンに対応できる品揃えを持つ

プレゼンスの向上
サステナビリティへの配慮

おいしさと品質に拘り、お客様にとって新たな、そして多様な
価値を創造し続けるメーカーへ変革する

お客様にお役立ちできるカテゴリーを
強化する(No.1カテゴリーの強化)

Point1 お客様の利便性を進化させる
具付き麺、自然解凍、おにぎり、
グラタン・ドリア…



Point2 ニッスイ独自の一貫生産を通じて
おいしさと品質を更に高める
ソーセージ、枝豆、鶏、瓶詰
おさかなソー(ケーシングレスソーセージ)



お客様の変化に対応できる
カテゴリーを創造する

高齢化…やわらか食(笑み満菜)
…ライフケア事業
魚油におけるニッスイの技術力を
最大限に活かします
…お届け(独自機能の組合せ)
仕組みの進化、グループMD機能の
集約・強化

簡便/高齢化
…チルド食品事業(協働の強化)
ベンダー事業で培ったノウハウと
ニッスイの持つ総合力を最大限に
活かします

9. 主要戦略

…ファインケミカル事業

医薬の強みをベースに「機能性脂質のリーディングカンパニー」を目指して、グローバル展開に向けた基盤をつくる

EPA

国内では

- ・医薬品として循環器分野での高シェアを維持
- ・機能性食品特保の「イマーク」の拡大と食品事業での展開

海外では

- ・高純度のEPAを作る高い技術をベースに医薬品としての拡大を担う。

DHA・アラキドン酸

- ・乳児用のミルクや栄養剤市場へグローバル展開

差別化のために

- ・生産技術を進化させ、ニッスイにしかできない技術を磨きます。
- ・バイオ技術を使ったアラキドン酸の早期事業化
- ・EPAの第一人者として国内の認知率のアップのための研究・調査・発信

成長と収益基盤の確保

物流の効率化と環境配慮を両立させた バリューネットワークを構築します

【物流拠点の海外展開】

日本国内の保管コスト上昇をにらみ、Global Linksと連携し海外展開
まず、アジアへの進出を検討する

【グリーン物流】

環境負荷を軽減するために、「モーダルシフト」、「ダウンサイジング、
ダウンウェイティング」を深化させる

【インフラの有効利用】

物流の効率化を図るために、グループ内インフラや他社とのインフラの
相互利用を進める

災害に強いサプライチェーンの確立を原点から構築する。

9. 主要戦略

主要戦略・・・グローバルマーケティング



<グローバル>

グローバルリンクスとローカルリンクスを基軸にし、緩やかであるが、強い求心力を持つ独自の仕組みを構築し、グローバル企業に進化する

- ✓ 各Local Linksを活動の単位として、それぞれの市場を深耕します（北米、南米、欧州）
- ✓ グローバルなお客様、グローバルな魚種へのプレゼンスを強化します（えび、白身魚、鮭鱒）
- ✓ 東南アジア市場へは、ニッスイとしてGlobal Links各社と協働し積極的に開拓
- ✓ グローバル人材の確保と育成



Global Links全体としてのプレゼンスを強化

海外売上高比率 2010年度 21.6%(1.067億円) 2014年度 26%(1.560億円)
近い将来30%以上に

※USD 78円、EUR 100円で算出

グループ全体の企業価値の向上



グループのフルポテンシャルを引き出す

【国内関係会社】
グループ経営会議

個別経営会議
ローリング機能

【海外関係会社】

新設
NGL Executive Board
グループ全体の重要戦略の企画・審議・提案

Nissui **G**lobal **L**inks
Conference

海外関係会社管理規程 **新設**

関係会社管理規程 ガバナンスの強化

9. 主要戦略

R&Dと加工生産戦略、資源保護、環境保護への取り組み

【R&D戦略】

限りある資源を
サステナブル、且つ、
より有効に利用するための
イノベーションと生産技術の
独自化を進めます

【加工生産戦略】

- ✓ お客様の声を大切に、
イノベーションを通じて
「品質重視」と「コストダウン」
を両立させます
- ※小集団活動の推進
- ✓ 災害に強い安定供給体制を
構築していきます

【資源保護への取り組み】

- ✓ 研究機関への助成
- ✓ 独自の研究
- ✓ Global Links Sustainable Board
の下、Sustainable Officerが
中心となりグループ共通の
ポリシーを策定

【環境保全への取り組み】

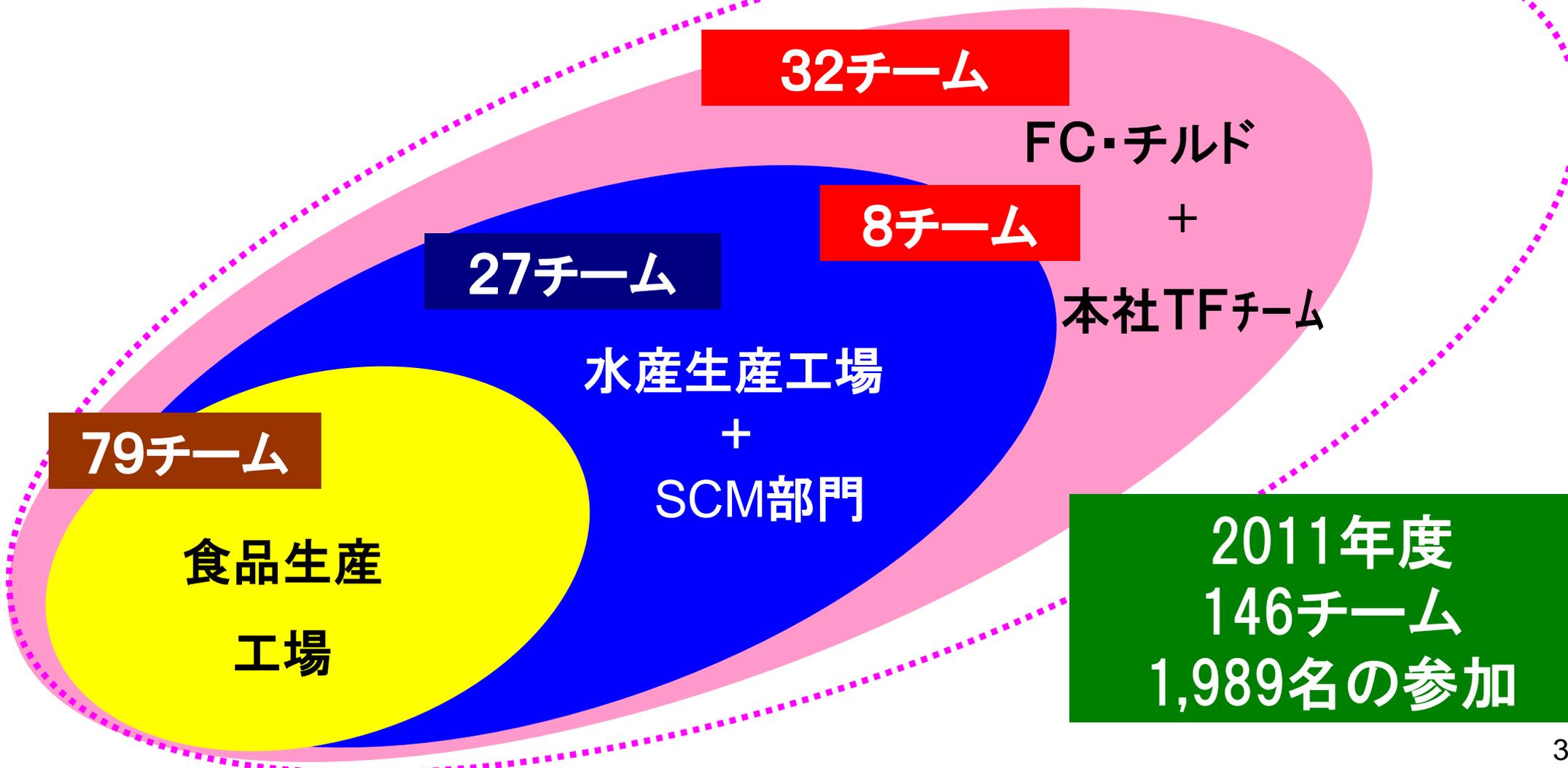
- ✓ 工場のゼロエミッション化
- ✓ 容器包材廃棄物の10%削減
(2011年度比)
- ✓ CO2、水削減の取り組みを更に
強化する

9. 主要戦略

...「現場主義」を支える小集団活動

挑戦的な課題をチームで達成した時、
一人ひとりの、大きな**成長**と**達成感**がある。

海外工場へも拡がり
中国・タイ



2011年度
146チーム
1,989名の参加

10. 社会との関わり

ダウンサイジング、ダウンウェイティングへの取り組み

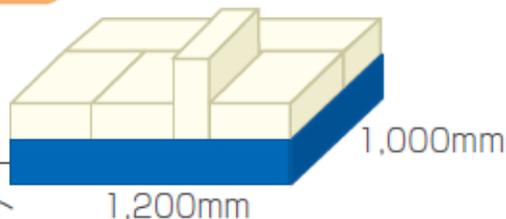


【ダウンサイジングの取り組み事例】

【サケ加工品】

ダウンサイジング前

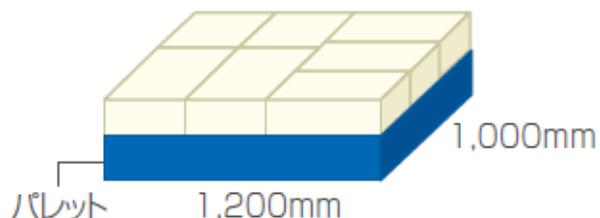
5個
+
はみ出し
パレット



59カートン
(5個×11段+4個)

ダウンサイジング後

7個
パレット



63カートン
(7個×9段)

積載率が
冷蔵倉庫保管で117%
船舶コンテナ内で109%向上

【大きな大きな焼きおにぎり】

ダウンサイジング前

パレット積載数:56



ダウンサイジング後

パレット積載数:63



内袋サイズは同一
だが、隙間を詰める
ことでカートン
サイズを縮小

【ダウンウェイティングの取り組み事例】



ダンボールのピースカットによる軽量化

「大きな大きな焼きおにぎり」
ダンボールの一部を
切り取ることで年間11.4tの
軽量化を実現

ニッスイの技術で社会にお役立ちできる事業を展開

【ニッスイマリン工業】

国際認証(OPITO)を取得した
日本初の民間の海洋サバイバル訓練施設
「日本サバイバルトレーニングセンター(NSTC)」



ヘリコプター水中脱出訓練の様子

【日本海洋事業】

海洋調査船、有人潜水調査船等の船舶運用業務
海洋調査や調査データ処理・ドキュメント作成業務



JAMSTEC所有の有人潜水船「しんかい6500」

100年の歴史の中で培った、
我々にしかできない技術



【海とさかな自由研究作品コンクール】

海やさかなと私達の暮らしとのかかわりを、体験を通して学び、
「海やさかな」に関心をもって頂くことを目的に、小学生を対象
に開催される本コンクールに30年以上協賛
この間に寄せられた作品は56万7,352点



	2014年度目標
連結売上高	6,000億円以上
海外売上高比率	26%(1,560億円)以上 2010年度(1,068億円 21.6%)
連結営業利益	230億円以上
EBITDA	420億円以上
営業利益純金利負担率	9%以下
自己資本比率	20%以上
ROA(総資産経常利益率)	7%以上
営業キャッシュフロー	350億円
有利子負債額	2,300億円以下

※USD 78円、EUR 100円で算出

11. 目標とする姿 セグメント別売上高(2010年度比)



単位:億円

<事業別>

売上高	水産事業	食品事業	ファイン事業	物流事業	その他事業	連結計
2014年度	2,500	2,770	380	130	220	6,000
2010年度	1,885	2,543	252	117	143	4,942
増減	614	226	127	12	76	1,057

<エリア別>

売上高	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	連結計
2014年度	4,510	630	130	110	620	6,000
2010年度	3,939	554	104	94	250	4,942
増減	570	75	25	15	369	1,057

※連結調整は省略して記載しております。

11. 目標とする姿

セグメント別営業利益(2010年度比)



単位:億円

<事業別>

営業利益	水産事業	食品事業	ファイン事業	物流事業	その他事業	連結計
2014年度	60	91	100	20	6	230
2010年度	7	40	56	15	4	80
増減	52	50	43	4	1	149

<エリア別>

営業利益	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	連結計
2014年度	215	21	21	6	14	230
2010年度	105	0	17	▲ 7	6	80
増減	109	20	3	13	7	149

※連結調整等は省略して記載しております。

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因の変化により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。

日本水産株式会社
2012年4月4日発表
証券コード：1332

お問合せ先：総務広報部広報課
03-3244-4371

<http://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

